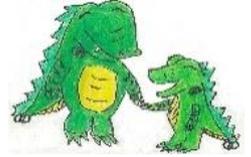




和邇小

ニュースレター

NO.2



2024.6.21 文責 西村 由香

気持ちを伝えることの大切さ その1

先週の「音楽会」で、仲間と一緒に舞台に立ち、頑張る子ども達の姿をご覧いただけただけでしょうか。また、子ども達の立ち振る舞いや声、演奏などからも、子ども達の思いが伝わってきたでしょうか。

1～6年生の子ども達は、昨年度に経験をし、今年度はさらにと目標をもって頑張る姿が見られました。私は、3年生の音楽を担当させて頂いているのですが、子ども達に出会うと「リコーダーが上手に吹けるようになったよ」「歌詞を覚えて歌えるようになったよ」「土日に練習して来たよ」「休み時間にリコーダーを教えてください」など、それぞれに目標をもって前向きに頑張る姿を見せてくれました。そして、練習を重ねる度に、自信をつけ、仲間との心を一つに合わせることの良さを感じながら、課題を乗り越えていく一人ひとりの成長を感じました。

本番では、他学年の児童や保護者の皆様に、演奏を味わっていただき、練習にはない緊張感も感じ取りながらも、**今まで自分が努力してきたことを信じ、そして仲間との絆を感じながら、自分の力を発揮している姿。そして、楽しみながら合唱・合奏する姿が輝いていました。**

音楽会を通して、どの学年も「**仲間とともに心一つに、想いを伝えることを大切にして、取り組んできました。**子どもたちの心の成長には必要不可欠なことだ」と考えています。発表の終わりにいただいた大きな拍手や「頑張ったね」の一言に、子どもたちは自分自身が1カ月に渡って、練習を積み重ねてきたことに大きな自信をもつことができたことと思います。

保護者の皆様の温かい拍手やこれまでご家庭で励まし、見守ってくださり、ありがとうございました。



気持ちを伝えることの大切さ その2

友だちと「ケンカ」、「トラブル」と聞くと、「うちの子、大丈夫かな?」と心配されたり、マイナスなイメージを持たれたりするでしょうか。しかし、子ども達にとって、ケンカやトラブルは人との関係性を築く上で、色々なことを学べる貴重な経験です。

友だちとケンカやトラブルになった子どもの話をじっくりと聞くと、

- 言葉足らずで上手く伝わっていなかった
- 自分の思いが先行して、相手の気持ちを感じ取れていなかった
- 言葉がトゲトゲしていて、相手を悲しい気持ちにさせてしまった
- 言葉で上手く伝えられず、足や手が出てしまった

など

自分をふり返って、また、自分と向き合って、足りなかったところや次に生かすためにはどうすればよいかを考えて、思いを伝えてくれます。自己表現をするのが得意・不得意、個々によって違いますが、自分とは違う相手への気持ちを理解したり、言葉や力の加減を学んだりして、心や体の痛みを知ることにもつながります。相手の気持ちが分かると、次は「しないように」と心に留めることにもつながります。また、自分の気持ちを言葉にすることで、感情を整理し、自分の気持ちを相手に伝える良い機会になります。ケンカやトラブルを通して、相手にも気持ちがあることを理解し、折り合いをつけたり、伝え方を学ぶ機会にもなります。

高学年は思春期をむかえ、周囲や大人の「自立への期待」の高まりから、悩みや不安を第三者に伝え、助けを求めにくくなります。また、「悩みを持っている自分を知られたくない」という気持ちから、子どもから助けを求めることに消極的になっていくと言われています。**小さい頃から、色々な経験を通して、自分の気持ちを相手に伝えるように、伝える経験や失敗の中から人とのつながり方を学ぶ経験は将来へとつながっていく大事な機会です。**

私たち大人たちがまずできることは、日々の子どもの「あのね」に耳を傾け、ちょっとした困りごとやつまづを自分の言葉で伝えられるように、傾聴し、言葉をつなぐことかも知れません。